

- 島根県では、肉用牛肥育農場の成績が枝肉重量・肉質ともに全国平均に達していない状況にあり、肥育技術向上が必要とされている。
- 肥育農場の経営改善のため、成績を全国平均レベルへ引き上げるための取り組みを強化。
- 枝肉重量の向上に意欲的な農場をモデルに、肥育成績向上を目的に作成した「肥育の手引き」を活用した、飼料採食量向上の実証調査を実施している。

具体的な成果

1. 良好な採食で推移

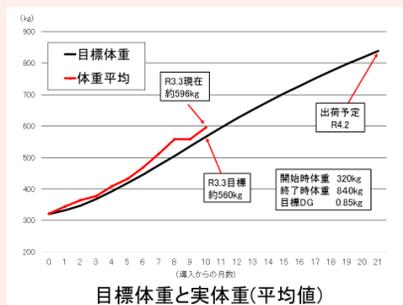
■実証開始から約4か月間の飼料給与を設計に基づき実施。以後は設計以上の採食で推移。



2. 目標以上の体重で推移

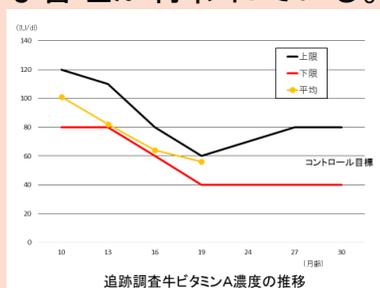
■令和3年3月時点で設定した目標体重と比較し約30kg上回って推移。

・3月末の体重
設定約560kg
実際約596kg



3. 適切なビタミンAコントロール

■血液プロファイルテストの結果を活用して助言を行い、適切な管理が行われている。



普及指導員の活動

令和元年

■県内肥育農場を対象とした経営・技術調査を実施、技術向上に向けた課題を整理。

■実証農場をモデルとした飼料採食量向上の実証計画を検討。

令和2年～

■関係機関との調査指導体制構築。実証調査計画の内容を関係者で情報共有。

■実証調査を定期的に行い、調査牛の発育状況確認、前回からの管理状況の振り返りと次回調査までの管理方法の確認を実施。

■血液プロファイルテストを実施し、結果に基づき適切な飼養管理が行えるよう関係機関とともに助言を実施。

普及指導員だからできたこと

・関係機関と連携して作成した「肥育の手引き」を活用し、実証調査計画を立案できたこと。

・関係機関と調査指導体制を構築し、その活動の中心となって各種計画内容を事項できたこと。

素牛の能力を活かす肥育技術の普及・実証

活動期間：令和2年度～（継続中）

1. 取組の背景

島根県内における肉用牛肥育農場の成績は、枝肉重量・肉質ともに全国平均に達していない状況にあり、肥育技術向上が必要とされています。

そこで、枝肉重量の向上に意欲的な農場をモデルに、肥育成績向上を目的に作成した「肥育の手引き」を活用した、飼料採食量向上の実証調査を実施しています。

2. 活動内容

(1) 実証調査の実施

モデル農場において、令和2年5月から去勢牛6頭を用い、実証調査を開始しました。

飼料給与体系は、肥育全期間を通して順調に採食させることをポイントとして、①導入から約4か月後（約13か月齢）の粗飼料比率が30%を下回らないこと、②出荷時の体重が約840kg（導入時体重：約320kg、肥育期間DG：約0.85kg）を目標にした設計を行い、提案・実施をしました。（図1）

なお、肥育経過は、飼料採食量・体重測定（毎月）、血液プロファイルテスト（年4回）を調査しました。

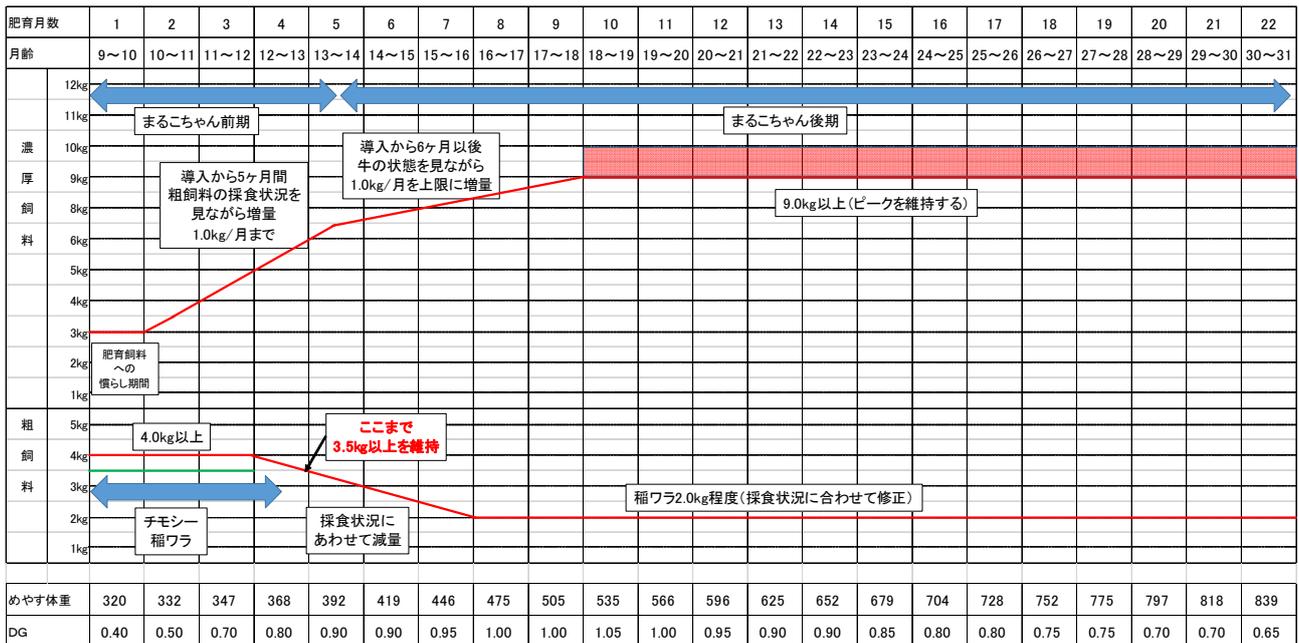


図1 実証調査牛の飼料給与体系(試験給与の目標)

(2) 関係機関との連携

農協、家畜診療所、家畜保健衛生所、農業普及部と連携し、対象農場に対し多角的に助言できる指導体制を確立しました。

(3) 検討会の開催

毎月の調査実施後、調査牛の発育状況を確認し、1か月間の飼養管理状況の振り返りを行うとともに、次回調査までの管理方法の確認を行いました。

また、血液プロファイルテストを実施した翌月に検討会を開催し、肉量や肉質の確保に重要なビタミンAコントロールの状況を確認し、適切な飼養管理が行えるよう助言を行いました。

3. 具体的な成果

(1) 採食状況

導入から約4か月後の粗飼料採食量が約3.6kg、濃厚飼料採食量が約6.5kg、粗飼料比率約36%に改善されました。導入から10か月時点では粗飼料約1.6kg、濃厚飼料10.0kgを採食し、設計した以上の採食量を示しています。「肥育の手引き」を活用した飼料給与の実施で、調査牛は腹作りができ、順調に採食できていると考えられました。



図2 飼料を採食する実証調査牛

(2) 増体状況

調査牛は3月時点で平均体重が約596kgで、設定した目標体重(560kg)を上回って推移しており、順調に発育しています。飼料給与設計以上の採食量を示しており、その結果が良好な増体につながっていると考えられました。

(3) 血液プロファイルテスト

血液プロファイルテストの結果を活用してアドバイスを行った結果、血中ビタミンA濃度はコントロール目標内で推移し、適切な管理が行われていることが確認できました。

4. 農家等からの評価・コメント(肥育農場管理者I場長)

提案された飼料給与設計に基づき、導入から約4か月間の飼料給与を注意しながら実施し、順調に採食・発育しています。この結果を踏まえ、以後導入する牛の飼養管理を注意して行うようになりました。また、目標とした仕上がり体重になるよう飼養管理を継続しています。

5. 普及指導員のコメント(農業技術センター技術普及部 専門農業普及員 遠藤治)

関係機関と連携して定期的な調査を実施、その結果をもとに検討を重ねることで飼養管理者の方の技術向上を図り、一定の成果が得られました。

実証調査牛の出荷まで調査・検討を継続して本実証調査の成果をとりまとめ、県内肥育農場の技術向上へ活用します。

6. 現状・今後の展開等

(1) 肥育牛の出荷は令和4年2月の予定です。令和3年度も定期的な調査、検討会を継続します。

(2) 今後、県内肥育農場を対象とした研修会を開催し、本活動事例などの情報を提供することで、「肥育の手引き」の活用による県内肥育成績の向上を図ります。